

# **PRIMERGY オプション製品**

---

## **システム構成図(留意事項編)**

## サーバ監視ソフト ServerViewについて

サーバ監視ソフトServerViewでは以下のような機能があります。

[Windows2003/Windows2000/WindowsNT]

項目	ServerView
主な機能	サーバ状態監視 異常通知 電源投入/切断スケジュール(一部未サポートモデルあり) パフォーマンス監視 (CPU負荷率、PCIバス負荷率など)
アラート機能 (異常通知方法)	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信 メッセージボックス(監視対象サーバ上、管理サーバ上) ポケベル プログラム起動 接続クライアントへブロードキャスト
リモートサービスボード(PG-RSB101)サポート	
使用メモリ	16～32MB

サーバ異常検出時のメッセージボックスは、サーバにログオンしていないと表示されません。  
ログオンしていないときに発生した異常は、インターネットメール、SNMPトラップにて通知することができます。  
また、イベントログにて発生を確認することができます。

[Red Hat Linux](Turbolinuxでは使用できません)

項目	Linuxサーバ上	監視用Windows端末
主な機能	サーバ状態監視 異常通知 * Web Extension使用による	サーバ状態監視 電源投入/切断 スケジュール運転設定 * モデルによる パフォーマンス監視 (CPU負荷率、PCIバス負荷率など) しきい値マネージャは使用できません。
アラート機能 (異常通知方法)	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信 メッセージボックス ポケベル プログラム起動 接続クライアントへブロードキャスト
リモートサービスボード(PG-RSB101)サポート		-
使用メモリ	32MB以上	16～32MB

\*LinuxサーバよりSNMPトラップを受信しての処理となる

## カスタムメイド出荷について

カスタムメイド出荷とは、ハードウェアの標準構成をメモリ/ディスク等のオプションごとにお客様の仕様に合わせて追加/変更し、本体に実装して出荷することのできる形態です。

カスタムメイド出荷により、お客様のシステム規模/予算にあった最適なシステム構成での導入が可能となります。

## 1. カスタムメイド出荷対象製品の製品構成について

カスタムメイド出荷対象製品の製品構成は、「基本タイプ(本体)」と「カスタムメイドオプション」から構成されます(下図参照)。それ以外の製品に関しては、従来通り、製品単位で出荷されます。

[カスタムメイド出荷適用範囲]

[基本タイプ(本体)]

(1) 筐体+CPU+メモリ  
を中心に構成

+

[カスタムメイドオプション]

(2) 空きスロットへの実装オプション  
(3) 基本タイプに実装されているメモリ、ディスク  
の交換オプション

+

[その他]

ソフト、  
外付OP、  
その他

=

出  
荷

[カスタムメイド適用製品一覧]

## (1) 基本タイプ(本体)

C150E/TX150/TX200/H450/T850/RX100/RX200/RX300/R450/BX300の全タイプが対象となります。  
(オールインワンタイプを除く。)

## (2) カスタムメイドオプション：空きスロットへの実装オプション

PRIMERGY専用の内蔵オプションが対象となります。(注：FMVとの共通製品等を除く。)

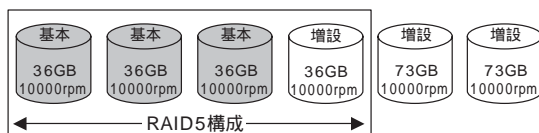
## (3) Linuxサービスバンドルタイプ

Linuxサービスバンドルタイプは一部オプションのみカスタムメイド対象となります。適用可能オプションは各本体樹系図の「Linuxサービスバンドルタイプのカスタムメイド対応について」を参照下さい。

## 2. アレイタイプにおけるオプションHDDのカスタムメイド出荷について(オールインワンタイプを除く)

アレイタイプでオプションHDDを手配した場合、基本HDD、および基本HDDと同一容量/同一回転数/同一型名のオプションHDDはRAID5で構成されます。  
それ以外のオプションHDDは初期化されておりませんので初期化処理を行ってからご使用ください。

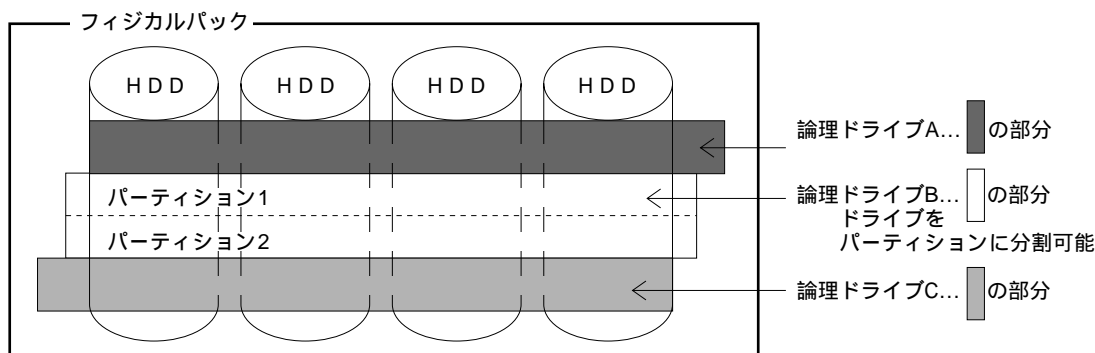
[例]



## ハードディスク関連事項

### ディスクアレイ構成の考え方

- ・フィジカルバック・・・1つのRAIDを構成する物理的なHDDの集まり。
- ・論理ドライブ・・・ネットワークOSがドライブとして認識できるドライブ。
- ・パーティション・・・ネットワークOSで設定する論理ドライブを分割したアクセス論理単位。

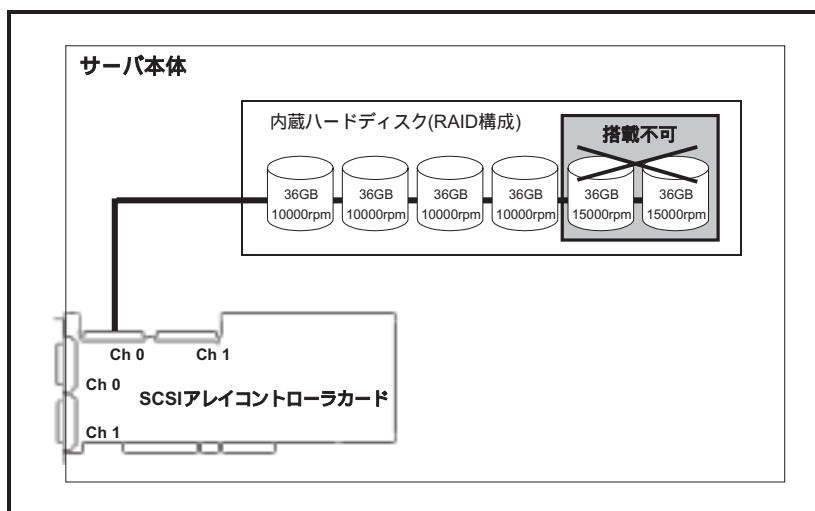


### < 構成規則について >

- (1) フィジカルバックは必ず同じ型名のハードディスクユニットで構成してください。
- (2) フィジカルバックを構築する場合、合計サイズが2TBを越えないように設定してください。  
一つの論理ドライブの最大サイズは、2TBとなります。  
PG-140C/140CL/142B/142C/142Dの場合は、フィジカルバック内に複数の論理ドライブを作成できません。  
フィジカルバック容量と論理ドライブ容量は常に同一となります。
- (3) 一つのフィジカルバックを構成するハードディスクユニットの台数は以下のとおりです。
 

・ RAID0	(性能向上のために、データを複数ディスクへ分割して書込む方式)	— 2 ~ 16台	[ 論理ドライブの実効データ容量は接続したディスク容量の総和 ]
・ RAID1	(信頼性向上のために、ディスクを二重化し同一データを書込む方式)	— 2台	[ 論理ドライブの実効データ容量は接続したディスク容量の1/2 ]
・ RAID5	(信頼性向上のために、データを分割しパリティを加えて書込む方式)	— 3 ~ 16台	[ 論理ドライブの実効データ容量は(接続したディスク台数 - 1)台分 ]
・ RAID6(0+1)	(信頼性向上のために、データを二重化かつ分割して書込む方式)	— 3 ~ 16台	[ 論理ドライブの実効データ容量は接続したディスク容量の1/2 ]

PG-140C/140CL/142B/142C/142DのRAID0/5/0+1では、一つのフィジカルバック構成で最大16台までサポート。  
PG-140C/140CL/142B/142C/142DのRAID0+1は4 ~ 16台で偶数のみ構成可。  
1台のハードディスクでフィジカルバックを構成することはできません。
- (4) 一つのフィジカルバックを複数の論理ドライブに分割した場合の各論理ドライブのRAIDレベルは同じものしか設定できません。
- (5) 一つのフィジカルバックは必ず、同一のアレイカードにつながるハードディスクで構成してください。
- (6) 1枚のアレイカードで複数のフィジカルバックを設定することが可能です。但し、ハードディスクユニットは以下の条件を満たす必要があります。
  - ・ フィジカルバックは同型名のハードディスクで構成する。
  - ・ 複数のフィジカルバックを同容量のハードディスクで構成する場合は、すべて同型名のハードディスクで構成する。
- (7) 1枚のアレイカードでRAIDレベルの異なる複数のフィジカルバックを混在させた設定も可能です。
- (8) 異なる型名のハードディスクを使用して複数のフィジカルバックを構成し、スペアディスクを設定する場合には各々のフィジカルバックに対して、同型名のスペアディスクを最低1台設定して下さい。
- (9) 1枚のアレイカード内で、同容量でかつ回転数の異なるハードディスクを混在させることはできません。

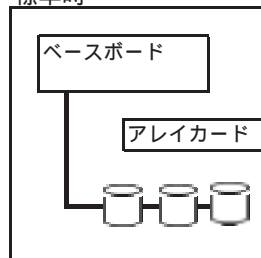


## ハードディスクキャビネット / SCSIアレイコントローラカード / SCSIカードの注意

ハードディスクキャビネットについて  
OSは必ずサーバ本体に内蔵ハードディスクにインストールすること

SCSIケーブル接続機構(PGBCBLS012)について  
H450/T850/RX300/R450のディスクレスタイプにSCSIアレイコントローラカードをカスタムメイドで手配する場合、SCSIケーブル接続機構(PGBCBLS012)が必須となります。ただし、RX300でPGB140CLを手配する際はSCSIケーブル接続機構は不要です。

標準時



SCSIアレイコントローラカードをカスタムメイドで手配しても、SCSIケーブルはオンボードSCSIに接続されています。

SCSIケーブル接続機構適用時



SCSIケーブル接続機構を適用するとSCSIケーブルはSCSIアレイコントローラカードに接続されます。

## SCSIアレイコントローラカード[PG-140C / 140CL]について

SCSIアレイコントローラカードはサーバ本体1台につき1枚のみ搭載可能です。  
SCSIアレイコントローラカードに接続可能なハードディスクはサーバ本体に内蔵ハードディスクのみです。  
サーバ本体に内蔵ハードディスクはサーバのオンボードSCSIを使用して接続します。

## SCSIアレイコントローラカード[PG-140C / 140CL / 142B / 142C / 142D]について

以下を制限とします。(制限解除時期：後報)  
・Expand Array (フィジカルバックの内容拡張)  
Linux環境ではRX200においてPG-140CLとPG-142Bの同時搭載はできません。

## SCSIアレイコントローラカード[PG-144C]について

PG-144Cに接続されたHDDにOSをインストールする場合は、サーバ本体の最大搭載メモリを4GBに制限します。  
他のSCSIアレイコントローラカードとの混在搭載はできません。

## システム構成図留意事項

## SCSIアレイコントローラカード接続方法

:接続可能、×:接続不可

SCSIアレイコントローラカード (0ch) 接続先	PG-140C			PG-140CL		
	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)
C150E	×	×	×	×	×	×
TX150	(*2)	×	×	×	×	×
TX200	標準ライブラリ	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース変換機構適用時	×	×	×	×	×
	標準ライブラリ + 内蔵ハードディスクベイ変換機構適用時	×	×	×	×	×
H450	×	×	×	×	×	×
T850	×	×	×	×	×	×
BX300	×	×	×	×	×	×
RX100	×	×	×	×	×	×
RX200	×	×	×	×	×	×
RX300	標準ライブラリ	×	×	×	×	×
	標準ライブラリ + 基本カードスロット変換機構適用時	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース変換機構適用時	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース変換機構 + 基本カードスロット変換機構適用時	×	×	×	×	×
	基本カードスロット変換機構適用時	×	×	×	×	×
R450	×	×	×	×	×	×

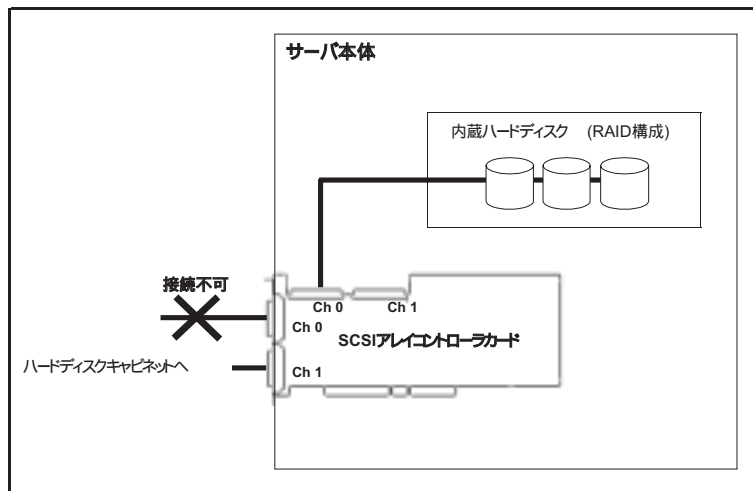
SCSIアレイコントローラカード (2ch) 接続先	PG-142B			PG-142C			PG-142D		
	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)
C150E	×	×	×	×	×	×	×	×	×
TX150	×	×	×	×	×	×	×	×	×
TX200	標準ライブラリ	×	×	×	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース変換機構適用時	×	×	×	×	×	×	×	×
	標準ライブラリ + 内蔵ハードディスクベイ変換機構適用時	×	×	×	×	×	×	×	×
H450	×	×	×	×	×	×	×	×	×
T850	×	×	×	×	×	×	×	×	×
BX300	×	×	×	×	×	×	×	×	×
RX100	×	×	×	×	×	×	×	×	×
RX200	×	×	×	×	×	×	×	×	×
RX300	標準ライブラリ	×	×	×	×	×	×	×	×
	標準ライブラリ + 基本カードスロット変換機構適用時	×	×	×	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース変換機構適用時	×	×	×	×	×	×	×	×
	基本ドライブケース変換機構 + 基本カードスロット変換機構適用時	×	×	×	×	×	×	×	×
	基本カードスロット変換機構適用時	×	×	×	×	×	×	×	×
R450	×	×	×	×	×	×	×	×	×

SCSIアレイコントローラカード (4ch) 接続先	PG-144C		
	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)
C150E	×	×	×
TX150	×	×	×
TX200	標準ライブラリ	×	×
	基本ドライブケース変換機構適用時	×	×
	標準ライブラリ + 内蔵ハードディスクベイ変換機構適用時	×	×
H450	×	×	×
T850	×	×	×
BX300	×	×	×
RX100	×	×	×
RX200	×	×	×
RX300	標準ライブラリ	×	×
	標準ライブラリ + 基本カードスロット変換機構適用時	×	×
	基本ドライブケース変換機構適用時	×	×
	基本ドライブケース変換機構 + 基本カードスロット変換機構適用時	×	×
	基本カードスロット変換機構適用時	×	×
R450	×	×	×

\*1: 1枚のSCSIアレイコントローラカードで内蔵ハードディスクおよびハードディスクキャビネットを同時接続する場合は「SCSIアレイコントローラカードの内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネット同時接続について」を参照下さい。  
 \*2: SCSIタイプのみ接続可能。

## SCSIアレイコントローラカードの内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネット同時接続について

1枚のSCSIアレイコントローラカードで内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネットを同時接続する場合には、内蔵ハードディスクとハードディスクキャビネット接続用にそれぞれチャンネルを分ける必要があります。同一チャンネルにおける内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネットの同時接続はできません。



## SCSIカード[PG-128/130L]について

本カード1枚に外付SCSI装置と内蔵SCSI装置を同時に接続することはできません。

その際は、カードを分けて接続してください。

本カード1枚に接続できる外付けSCSI装置の台数は、

- (1) バックアップキャビネットを除く外付けSCSI装置は最大4台までのデジーチェーン接続が可能です (DATユニット(DDS4)/DATオートチェンジャ(DDS4)は2台まで、DLTライブラリ装置/カートリッジテープ装置はデジーチェーン接続不可)。

## SCSIカード[PG-129B]について

: 本カードは内蔵SCSI装置にのみ接続可能です。

: 本カード1枚にHDDとバックアップ装置を同時に接続することはできません。

その際はカードを分けて接続してください。

## SCSIアレイコントローラカードのサポートOS

SCSIアレイコントローラカードのサポートOSは以下のとおりです。

: サポート、× : 未サポート

OS	SCSIアレイコントローラカード					
	PG-140C	PG-140CL	PG-142B	PG-142C	PG-142D	PG-144C
Windows Server™ 2003, Standard Edition						
Windows Server™ 2003, Enterprise Edition						
Windows®2000 Server						
Windows®2000 Advanced Server						
WindowsNT®Server 4.0		×			×	
WindowsNT®Server 4.0, Enterprise Edition		×			×	
SBS2000	×	×	×	×	×	×
Red Hat Linux 7.3 (*1)	×	×		×	×	×
Red Hat Linux 8.0 (*1)					×	×
Red Hat Enterprise Linux ES (*1)					×	×
Red Hat Enterprise Linux AS (*1)	×	×		×	×	×
Turbolinux 7 Server	×	×		×	×	×
Turbolinux 8 Server		×			×	×

\*1: 既にLinuxサービスバンドルタイプをご使用中のお客様が本SCSIアレイコントローラカードを増設される場合、

本体に同梱されている(ドライバまたはStorageManager)をご使用ください。

またHDタイプ/ディスクレスタイプにおいてLinuxをご使用される場合、必要なドライバおよびStorageManagerはFMWORLD.NETよりダウンロードしてください。

## システム構成図留意事項

## 接続可能なハードディスクキャビネット数について

ハードディスクキャビネット			C150E	TX150	TX200	H450	T850	BX300	RX100	RX200	RX300	R450
	型名	チャネル数										
PRIMERGY S30 (ラックマウント)	PG-R1DC6	2	-	-	2	8 (*1)	5	-	-	1	2	8 (*1)
PRIMERGY S30 (ベディスタル)	PG-DC106	2	-	-	2	8 (*1)	-	-	-	-	-	8 (*1)

\*1) Linuxで使用する場合は、最大4台までの接続となりますので注意願います。

## S.M.A.R.T.機能について

S.M.A.R.T.対応

:S.M.A.R.T.対応, x:S.M.A.R.T.未対応, -:接続できません

接続形態	内蔵ハードディスクユニット										ハードディスクキャビネット			
	IDEハードディスク		SCSIハードディスク										SCSIハードディスク	
	標準搭載 IDE	標準搭載 アレイコントローラ	SCSIアレイコントローラカード										SCSIアレイコントローラカード	
			アレイタイプ 標準搭載カード	PG-140C	PG-140CL	PG-142B	PG-142C	PG-142D	PG-144C	PG-142B	PG-142C	PG-142D	PG-144C	
C150E			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TX150					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TX200	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H450	-	-		-	-			-	x			-		x
T850	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-		-	-
BX300	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RX100	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RX200	-	-		-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
RX300	-	-		-		-		-	-	-		-	-	-
R450	-	-		-	-			-	x			-		x

注) S.M.A.R.T.機能にはServerViewが必要です。S.M.A.R.T.機能はLinuxでは未サポートです。

## メモリ関連事項

## OSにおける使用可能メモリ容量について

OSにより使用可能なメモリ容量が異なりますので、ご注意願います。使用可能メモリ容量は以下の通りです。

(搭載可能なメモリ容量およびサポートOSは機種により異なります。)

OS	使用可能メモリ容量
Windows Server™ 2003, Standard Edition	4GB
Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	32GB
Windows®2000 Server	4GB
Windows®2000 Advanced Server	8GB
SBS2000	4GB
Red Hat Linux 7.2 Professional	64GB
Red Hat Linux 7.3	64GB
Red Hat Linux 8.0	64GB
Red Hat Enterprise Linux ES	4GB
Red Hat Enterprise Linux AS	64GB
Turbolinux 7 Server	64GB
Turbolinux 8 Server	64GB

## S C S I 装 置 ( バ ッ ク ア ッ プ ) 関 連 事 項

## バックアップ装置のサポートOSと使用するソフトウェア一覧

バックアップ装置	装置型名	規格	記憶容量 (GB)	処理速度 (MB/s)	WindowsNT® Server 4.0/ Enterprise Edition		Windows®2000 Server/ Advanced Server		Windows Server™ 2003, Standard Edition/ Enterprise Edition		備考				
					NTBACKUP	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NTBACKUP	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NTBACKUP	BrightStor™ ARCserve® Backup v9					
1/4インチ CRMT 装置	PG-SL601	SLR60	30	4.0	装置添付 ドライバ使用		装置添付 ドライバ使用				・高信頼性が必要な基幹業務に 適している				
	PG-SL101	SLR100	50	5.0											
DLT 装置	PG-DL401/ PGSDL401	DLT8000	40	6.0	×		×		×		・高信頼性が必要な基幹業務に 適している ・自動バックアップ処理可能				
	PG-DLL401	DLT8000 ライブラリ	360												
	PG-DLL402		800												
LTO 装置	PG-LT101	LTO( Ultrium1 )	100	7.5	×		×		×		・高信頼性が必要な基幹業務に 適している				
	PGSLT101														
	PG-LTL102	LTO ( Ultrium1 ) ライブラリ	1000	15							×		×		・高信頼性が必要な基幹業務に 適している ・自動バックアップ処理可能
	LT13xxxxxx		3000 ↓ 6000												
DAT 装置	PG-DT401	DDS4	20	3.0	Server Start						・定期的なクリーニング必須				
	GP5SDT401				装置添付 ドライバ使用										
	PG-DT402D			2.75									装置添付 ドライバ使用		
	PG-DTA102	DDS4 オート チェンジャ	120	3.0	×		×		×	・定期的なクリーニング必須 ・自動バックアップ処理可能					
	GP5SDTA102														

バックアップ装置	装置型名	規格	記憶容量 (GB)	処理速度 (MB/s)	Red Hat Enterprise Linux AS Red Hat Enterprise Linux ES Red Hat Linux 8.0	Turbolinux 8 Server	Turbolinux 7 Server	備考		
					NetVault 7		NetVault 6.5 Turbolinux Edition			
1/4インチ CRMT 装置	PG-SL601	SLR60	30	4.0	×	×	×	・高信頼性が必要な基幹業務に適している		
	PG-SL101	SLR100	50	5.0						
DLT 装置	PG-DL401/ PGSDL401	DLT8000	40	6.0				・自動バックアップ処理可能		
	PG-DLL401	DLT8000 ライブラリ	360			×	×			
	PG-DLL402		800							
LTO 装置	PG-LT101	LTO( Ultrium1 )	100	7.5			×	・高信頼性が必要な基幹業務に適している		
	PGSLT101			15						
	PG-LTL102	LTO ( Ultrium1 ) ライブラリ	1000					×		・高信頼性が必要な基幹業務に適している ・自動バックアップ処理可能
	LT13xxxxxx	3000 ↓ 6000								
DAT 装置	PG-DT401	DDS4	20	3.0				・定期的なクリーニング必須		
	GP5SDT401			2.75						
	PG-DT402D									
	PG-DTA102	DDS4 オート チェンジャ	120	3.0		×	×	・定期的なクリーニング必須 ・自動バックアップ処理可能		
	GP5SDTA102									

記録容量/処理速度は非圧縮時の値。

NTBACKUPでバックアップした場合、各装置の処理速度よりも遅くなる場合があります。処理性能を重視される場合にはARCserveの使用をお勧めします。

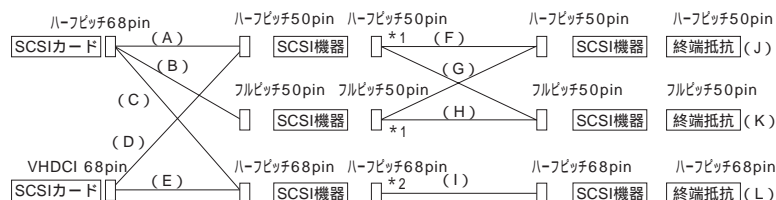


## SCSI機器の接続について

## 1. SCSIケーブル/終端抵抗について

外付けSCSI機器を接続する場合、SCSIカード / SCSI機器のコネクタの形状により使用するSCSIケーブル / 終端抵抗が異なりますのでご注意ください。

- ・ハードディスクキャビネット、バックアップキャビネットの接続については、各構成図を参照してください。
- ・LTOライブラリ装置（100GB×30）、カートリッジテープ装置については、各構成図を参照してください。



\*1：ハーフピッチ50pinもしくはフルピッチ50pinのSCSI機器に、ハーフピッチ68pinのSCSI機器をデジチェーン接続することはできません。

\*2：ハーフピッチ68pinのSCSI機器に、ハーフピッチ50pinもしくはフルピッチ50pinのSCSI機器をデジチェーン接続することはできません。

	品 名	型 名	コネクタ	線 長
(A)	SCSIケーブル	GP5-833	ハーフ68pin-ハーフ50pin	1m
(B)	SCSIケーブル	GP5-832	ハーフ68pin-フル50pin	1m
(C)	-----	SCSI機器添付	ハーフ68pin-ハーフ68pin	
(D)	SCSIケーブル	GP5-844	VHDCI68pin-ハーフ50pin	2m
(E)	SCSIケーブル	GP5-846	VHDCI68pin-ハーフ68pin	2m
(F)	SCSIケーブル	FMV-CBL832	ハーフ50pin-ハーフ50pin	1m
(G)	SCSIケーブル	FMS-834 FMV-CBL831	フル50pin-ハーフ50pin フル50pin-ハーフ50pin	1m 2m
(H)	SCSIケーブル	FMB-CBL831 FMB-CBL832	フル50pin-フル50pin フル50pin-フル50pin	1m 2m
(I)	-----	SCSI機器添付	ハーフ68pin-ハーフ68pin	
(J)	終端抵抗	FMV-695	ハーフ50pin	
(K)	終端抵抗	FMV-692	フル50pin	
(L)	-----	SCSI機器添付	ハーフ68pin	

## 2. SCSI機器の接続台数について

## (1) SCSI-2対応装置を接続する場合

外付けSCSI機器は最大4台までデジチェーン接続可能（ケーブル長は合計5m以下とする）

## (2) UltraSCSI対応装置を接続する場合

外付けSCSI機器は最大2台までデジチェーン接続可能（ケーブル長は合計2m以下とする）

同一のSCSIカードに対して、外付けSCSI機器と内蔵SCSI機器とを同時に接続することを禁止する。

DLT/LTOライブラリ装置はデジチェーン接続不可。

GP5-844、FMV-CBL831およびFMB-CBL832（SCSIケーブル、2m）を使用する場合は、SCSI機器を2台接続したとみなし、接続できるSCSI機器の台数は少なくなります。

## Linux関連事項

## Linuxシステムにおけるバックアップソフト

Linuxにおいてバックアップ装置をご使用になる際には、以下のソフトウェアがご使用いただけます。

ディストリビューション	単体バックアップ装置	ライブラリ系バックアップ装置
Turbolinux 7 Server	NetVault 6.5 Turbolinux Edition	
Turbolinux 8 Server	NetVault 6.5 Turbolinux Edition	
Red Hat Linux 7.2 Professional		
Red Hat Linux 7.3		
Red Hat Linux 8.0	NetVault 7	NetVault 7
Red Hat Enterprise Linux ES	NetVault 7	NetVault 7
Red Hat Enterprise Linux AS	NetVault 7	NetVault 7

## Linuxシステムにおけるメモリ搭載について

Linuxシステムではディストリビューションにより最大搭載メモリ容量が以下になります。

ディストリビューション	最大搭載メモリ容量
Turbolinux 7 Server	64GB
Turbolinux 8 Server	64GB
Red Hat Linux 7.2 Professional	64GB
Red Hat Linux 7.3	64GB
Red Hat Linux 8.0	64GB
Red Hat Enterprise Linux ES	4GB
Red Hat Enterprise Linux AS	64GB

## ディスクレスタイプ/HDタイプのサポートについて

ディスクレスタイプ/HDタイプにおけるLinux関連情報については、弊社HP(<http://www.fmworld.net/biz/primergy/linux/>)を参照下さい。  
また、サポートを必要とされるお客様につきましては、別途SupportDeskを契約して下さい。

サポート対象ディストリビューション( )

- Turbolinux 7 Server
- Turbolinux 8 Server
- Red Hat Linux 7.2 Professional
- Red Hat Linux 7.3
- Red Hat Linux 8.0
- Red Hat Enterprise Linux ES
- Red Hat Enterprise Linux AS

サポートディストリビューションは、本体装置により異なります。

## LinuxシステムにおけるRAID構成について

- ・RX200においてPG-140CLとPG-142Bの同時搭載はできません。